



令和6年11月15日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

伝えたい気持ちが届きましたか？ ひまわり発表会！

10月25日にひまわり発表会を開催しました。多くの保護者の皆様、地域の皆様に足を運んでいただき、子どもたちのやる気を引き出していただきました。当日は天気にも恵まれたこともあり、昨年度に比べておじいさん、おばあさんの姿もたくさん見かけることができた気がします。

オープニングの「ひまわりのうた」では、この日のために全校児童が手話を覚え、松江ろう学校のみなさんと一緒に歌ったり、表現したりしました。（残念ながら盲学校のみなさんは時間の関係で間に合いませんでした。）毎年歌っているので高学年は思い出しながら、1年生は教えてもらいながら一生懸命覚えました。4年生の合唱・合奏は、県民会館のステージ発表にセリフを加え、より見ごたえのあるものにバージョンアップされていました。また、1年生のふるりんピッグでは、それぞれの得意を生かした発表を行い、2年生の劇ではネコとネズミのやりとりの中から「やさしさ」について考えるようなメッセージ性がありました。3年生は中学年になって、教科も増え、新しいことに対して取り組んできたことをしっかり発表できました。

松江ろう学校の劇は、9月に学園祭（かきばら祭）で発表したものをアレンジし、映像とリアルをうまく組み合わせて、表現されていました。耳が不自由で、うまくしゃべることができなくても観ている人にしっかりと伝わってきました。こどもたちにとってはとても貴重な体験です。今年はすぎのこ・たけのこ学級が単独で取り組んだ石見神楽。舞だけでなく、衣装も面も手作りで、おはやしや口上も動画をたくさん見て探しました。それぞれの得意を生かした発表でした。5年生は社会科と総合的な学習の時間を使って取り組んだ米作りについての発表でした。地域講師としてご指導いただいたカンドーファームの職員の方も見に来てくださり、帰りがけに「とてもいい発表でした。感動しました。」と声をかけていただきました。最後は6年生。さすがは最高学年と感じるくらい堂々とした姿で、呼びかけや歌声も素敵でした。全員で頑張る姿に感動しました。

松江ろう学校の校長先生が新規採用教員で赴任した頃は、まだひまわり発表会はなく、私が赴任した平成9年にはあったので、この間にスタートした行事のようです。コロナ対策で方法を変えたりしながらも30年前後の歴史を積み重ねてきています。その時にできることを無理なく続けていくことで、一緒にやるのが当たり前という文化を、今後も大切に続けていきます。

1年生発表後の集合写真



初めてのひまわり発表会は大成功！みんな素敵な笑顔です！！

「人権標語の紹介」

今年も素敵な作品がたくさんできました。

- えがおはね こころのおくすり はい！どうぞ
- だいじだよ たいせつにする すきなもの
- ありがとう そのひとことが だいいっぱ
- だいじょうぶ ゆうきをもって 未来へゴー
- だいじょうぶ 一人じゃないよ そばにいる
- 差別なく 世界のはじまで笑顔の和
- まずさきに 相手の話 聞いてみよう

ほっこり

先日こんな報告が養護教諭からありました。

自分が不在で、臨時養護教諭の先生に来ていただいた時に、その先生が保健室に来た4年生の女子に、「古江小学校のいいところはどこですか。」と聞かれたら、「笑顔です。」とSさんが答えたそうです。

そのやりとりを「とてもすてきですね。」と養護教諭に報告され、養護教諭も「古江小学校の合言葉がフル笑顔なので、こどもたちもそう答えたのではないのでしょうか。」と伝えたそうです。

こんなやりとりに心がとってもほっこりしました。

「正解」と「最適解」

最近多く耳にするようになった最適解という言葉をご存じでしょうか。正解かどうかはわからないが、現段階では最も適した考え方であると私は捉えています。

「10年ひと昔」という言葉が長く使われていましたが、それが「5年ひと昔」「3年ひと昔」とどんどんサイクルは早くなっています。それだけ社会情勢の変化のスピードが加速度的になってきています。

実際に自分が大学で学んだ知識は、40年近くが経過した今の学校教育において使えなくなったもの、通用しなくなったもの少なくありません。教員に必要な知識とスキルも時代と共に変化してきています。

これは、我々大人の経験値・経験則だけではこどもの未来に向けた発信は難しくなっていることも意味しています。教職員は教育委員会や校内主催で研修機会を設け、日々アップデートをしています。それでもこれが正解であると言い切れないジレンマがあります。現段階での最適解を示しながら、時代と共にこどもたち自身がアップデートしていく力こそ必要です。

「揉む・揉まれる」

皆さんはこの言葉にどんなイメージを持っていますか？

自分は柔道をしている時に「いっちょ、揉んでやるからかかってこい」と指導者に言われびくびくした記憶や、大人から、「社会の荒波に揉まれて成長することも大事だ」と教訓めいて言われた記憶もあります。社会に出てからは「自分の案を考えてきたので会議で揉んでください」と使ったこともあります。

字形を見ると「手で柔らかくする」という意味をもっているだろうと推測できます。自分の捉えとしては、手を人の手→人の力と拡大解釈し、それによって自分の価値観や考えなどを柔らかくするのではと考えます。自分だけのものさしだけでなく、他の人と関わることで、自らを成長させたいです。

11月12日早朝の風景はとても幻想的でした。東の空が朝焼けでオレンジ色に染まり、生馬から古志・宍道湖にかけて一面の放射霧がかかっていました。不思議なことに学校周辺や朝日が丘、長江方面には霧がかからず、放射冷却で凜とした空気が流れていました。既にコハクチョウなどの渡り鳥も飛来し、冬の訪れを感じつつあります。

私はこの時期の天気がいい日の出の時間が大好きです。本庄小学校に勤務している時には、中海越しに見える大山が水面にも映り、短時間に紫やオレンジ色に変化していくのをVIVANTのロケでも使われたウッドデッキから眺めていました。安来市内の学校に勤務した時にも、直線道路の向こう、霧の中や日の出とともに雄大な大山が見えてくる日は、それだけで充実した一日になる気がしていました。

どれだけきらびやかな人工物の美しさでも、自然美にはかないません。この風景が日常的にみることでできる島根に住むことができて幸せであることを実感しています。